

交流講座実施状況報告書

講座名	少子高齢化を生き抜く「ハタラク」支援事業 交流講座		
開催日時	平成26年1月25日(土) 15時30分～18時		
開催場所	松山市男女共同参画推進センター5階会議室		
参加人数	61名	備考	

・交流講座テーマ：「仕事と介護の両立」について、それぞれの立場で考えるきっかけに！
 ・当日のプログラム：講演「ライフは育児のみならず・・・介護時代を迎え、
 多様化するステージを企業も人もどう乗り越える？」
 講師／ 渥美由喜氏（厚生労働省 政策評価に関する有識者会議委員）

パネルディスカッション「企業と人とのwinwinに向けて・・・
 それぞれの立場での課題を考える」
 パネラー／ 渥美由喜氏
 小原明美氏（株式会社えひめリビング新聞社編集長）
 永江美香氏（在宅ケアセンターひなたぼっこ）
 岩丸裕建氏（一般社団法人愛媛法人会連合会連合事務局長）
 進行／ 合田みゆきさん(フリーアナウンサー)

講演では、渥美氏ご自身の会社員、子育て、家事、介護の5Kライフの経験談を交えながらより良いワーク・ライフ・バランスへ導くキーワードを通してヒントを多く頂いた。「介護＝生活プランの再設計」「ネットワーク構築力」「介互、看互。いのちのバトンリレー」
 続いてパネルディスカッションでは「仕事があったからこそ介護が出来る」と小原氏。「介護者のベッドが家のどの場所にあるかで見えてくる。」と介護現場で働く永江氏。「愛媛は長男だから、長男の嫁だからと偏った考えがまだ根強い」と岩丸氏。パネラーの考えの共通点のひとつとして「個々がワークにもライフにも真摯に向き合い、ポジティブに捉えていくことがより良い社会をつくっていく」ということであった。






※協働者の(有)メディカさんがアップしたレポートも別紙あり

交流講座実施状況報告書

講座名	少子高齢化を生き抜く「ハタラク」支援事業 交流講座		
開催日時	平成 26 年 2 月 2 日（日）10 時 00 分～12 時		
開催場所	今治地域地場産業振興センター2 階会議室		
参加人数	17 名	備考	
<p>・交流講座テーマ：「仕事と介護の両立」について、それぞれの立場で考えるきっかけに！</p> <p>・当日のプログラム：講演「男性介護者 100 万人へのメッセージ」</p> <p style="text-align: center;">講師／ 津止正敏氏（男性介護者と支援者の全国ネットワーク事務局長 立命館大学産業社会学部教授）</p>			
			
<p>対談</p> <p>パネラー／ 津止正敏氏 石川剛史氏（新居浜市社会福祉協議会）</p> <p>進行／ 合田みゆきさん(フリーアナウンサー)</p>			
<p>講演では、津止氏が大学で受け持った女子学生が、授業のレポートで提出した「高齢社会」についての実体験が紹介された。アルバイトでコンビニのレジをやっていた学生は、「お弁当についている箸が割れないので、割っておいてほしい」「食パンの耳はかたくて食べられない」「ペットボトルのふたが固くて開けられない」など、多くの体験をしたという。大都市では、求人欄に「ベビーシッター」と並んで「シルバーシッター」の求人が出ており、高齢者を取り巻くニーズと環境が変わっていることをご紹介いただいた。</p> <p>津止氏は、ワーキングケアラー(仕事をしながら、親や子どもや障がいのある家族の介護看護をしている人)が現在全国で 270 万人。それが当たり前の環境になりつつあるいま、企業も働く人も「これまでの当たり前」に疑問を持って、これからの働き方を考えないといけない。また「制度整備は既製服を並べるよりも、布地を用意して『あなたに合うように作るよ』というスタイルがしっくりくる」そのためには日頃の職場でのコミュニケーションや信頼関係が大切、というメッセージを送られた。</p> <p>対談での石川さんのお話では、「子どもの手術のための介護休業を取得。そのための準備や仕事の段取り、引継ぎやコミュニケーションは決して特別なことではなかった」というお話。</p> <p>男性だから、課長だから、ということではなく、1 人の人として、親として、社会人としての選択であり、それが当たり前の社会になることを願うとお話いただいた。</p>			
			

